

日本学術会議物理学委員会・天文学宇宙物理学分科会報告

22期第9回、10月4日及び22期第10回、1月6日

- 学術会議全体
 - 若手アカデミーの設立:30-45歳の連携会員、各部20名。
 - マスタープラン:分科会として、8件を推薦。学術の大型計画分科会案として、新規192件が選ばれ、重点大型計画についてヒアリングが66件実施。分科会関係分は、SPICA、SKA、LiteBIRD。重点大型研究計画は25件選ばれ、来年3月に提言が出される予定となっている。
 - 会員・連携会員の改選:2014年9月30日に改選される。推薦の取りまとめを行なっているところ。
- 分科会の活動
 - 天文学・宇宙物理学分野の中規模計画について:各研究者団体とも連携を取り、130ページほどの冊子にまとめた。印刷をし、配布予定。
 - 宇宙科学の推進について:ロードマップの議論があり、一定の枠を保って進める。中型(H2)、公募小型(ϵ)、小規模プロジェクト群(10億/年)
 - 大型計画フォローアップ: (1) SKA, 日本が今後どのように貢献参加していくのか、コミュニティとして議論してもらいたい。(2) SPICA, 国際協力の組み替え等、計画全体を見直している。
 - 新規中規模計画について:広島大SGMAPについて説明があった